

第6期宮前区区民会議 第3回（仮称）地域活性部会
【摘録】

日時：平成28年10月27日（木）18:00～20:00
会場：宮前区役所4階第1会議室

【進行 佐藤部会長】

出席委員（敬称略）：佐藤、川田、影山、荒川、老門（泰）、黒澤、田辺、山田、山部（9名）

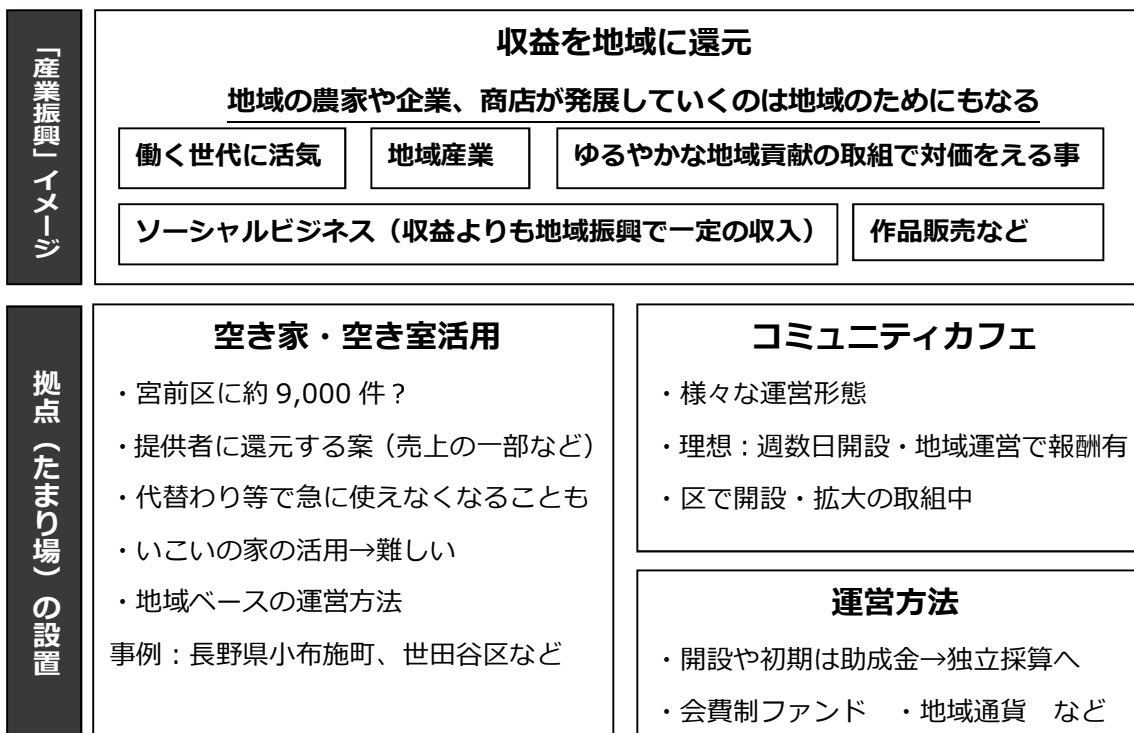
欠席委員（敬称略）：大木（1名）

傍聴人：0名

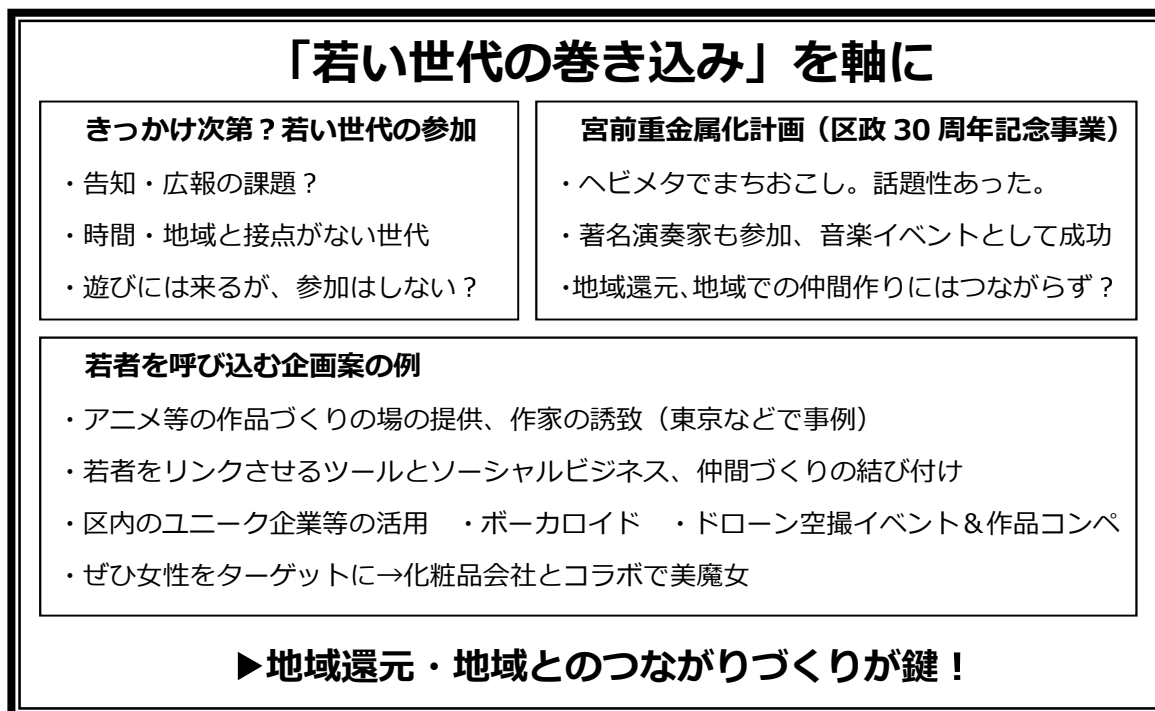
議題：

1. これまでの審議経過確認（公開）
資料3に基づき第2回部会までの議論の振り返り
2. 先進事例等について（公開）
資料4～9に基づき、今後の部会審議の参考となりそうな取組事例の紹介
3. 部会の審議テーマについて（公開）
意見交換を行った。主な意見は次ページ以降のとおり
4. その他（公開）
その他の話題提供（別紙資料配布あり）
 - ・コミュニティカフェ講座 11月20日（日）開催
 - ・福祉有償輸送運転者養成講習 12月3・4日開催部会名について…テーマが絞り込めた段階で協議
今後の進め方…部会日程案等の確認

専門部会の審議テーマについて（主なキーワード・模式図整理）



「拠点」からではなく、「企画内容」や「目的」から考えてみる。



※各意見の詳細その他は次ページ以降参照

【「産業振興」のイメージについて】

- ・ 「産業振興」という言葉に違和感や抵抗があるというご意見があった。私は、「働く世代に活気」というイメージをうまく表せればと思っている。(佐藤部会長)
- ・ 「産業振興」の中身がまだうまく捉えられていない。宮前区はいわゆるベッドタウンだが、私はそれで良いと思っている。区内に産業が無くてはいけないのか。(田辺委員)
- ・ 「産業振興」というと、言葉ばかり独り立ちしてしまいそうだ。(影山委員)
- ・ 私の様な年金生活者の日中の過ごし方を考えると、「地域のたまり場」「人との繋がりや交流」が重要になる。地域の活動やボランティアに誘われることも多いが、基本的に全て無償だ。「残りの人生これでいいのか」という疑問が私の出発点だ。おこづかい程度で良いので対価が得られないか。それが私の「産業振興」のイメージ。(影山委員)
- ・ もちろん会社やお店を立ち上げるようなビジネスもあって良いが、ゆるやかな取組で対価を得られるようなものもあれば、より継続できるものになるのではないかと。(佐藤部会長)。
- ・ 「ソーシャルビジネス」だと思った。一番の目的は地域振興で、金儲けではないが、一定の収入を目指す形だ。(田辺委員)
- ・ 行政は公益的な観点からお金儲けはできない。最近はお金を儲けても良いが、それを地域に還元していく方法を模索していくという考え方も出て来ている。(事務局)
- ・ 「地域産業」という表現でどうか。この中で意識をもってもらえれば良い。(川田委員)
- ・ あくまで「地域振興」が第一。そこは注意深く進めたい。(田辺委員)
- ・ 自分で作った物をちょっと売って対価を得るような形。あまり形にとらわれなくて良いのではないかと。(川田委員)
- ・ 自治会は特定の事業者や商店の施設を使ったり、宣伝につながる様な取組を避けたりする傾向がある。地域の農家や企業、商店が発展していくのは地域のためにもなるという雰囲気づくりが必要。「産業振興」に私はそういう可能性を感じた。(黒澤委員)

【空き家、既存の施設等の活用について】

- ・ 2, 3年前に宮前区で9000戸の空き家があるという記事を見たが、気が付けば私の家の4LDKも、娘たちが巣立ってガラガラだ。小学校区に一軒くらいは活用できる家があるのではないかと。(影山委員)
- ・ 例えば地域の農家が、倉庫やスペースをおしゃれにして開放する。そこに地域の方が集まって交流したり、農産物を使ったイベントなどをしたりする。売上の何パーセントかを農家に戻すというしくみはどうか。(影山委員)
- ・ 空き家を活用する場合、オーナーの事情でいつ使えなくなるかわからないというデメリットがある。(川田委員長)
- ・ 空き家は、そのままでは使えず、使えるようにするだけでも相当のお金がかかることが多い。さらに立地も重要。オーナーも一定の対価が得られるなら売りたい人、運営はまかせたい人など、いろいろなケースが想定される。宮前区的环境にあったモデルを探求

できないか。(影山委員)

- ・ 隣近所で情報共有が進むような形、地域に根差した形が必要ではないか。先ほどの話では、平均すると一つの自治会に 100 以上の空き家があることになる。自治会レベルで進める必要があるのではないか。(黒澤委員)
- ・ 長野県の小布施に行ったときに、皆さんの持家の玄関がオープンにしてあって、「何時～何時までいいですよ」と書いてあり、かわいいキャラクターが置いてある。マップが掲示されていて、「ようこそこのまちへ」と書いてある。いろいろな世代の人が集まって、お茶していたり、自分の作品を少額で売っていたりする。非常に自由な雰囲気でした。そんなものが宮前でも何かできないか。(影山委員)
- ・ いこいの家をもっと活用できたらと思っている。利用者はリタイヤ組が多いが、若い人にもっと来てもらって交流できれば、発展できるのではないか。(山部委員)
- ・ いこいの家は、若い世代がターゲットとなっている施設ではないので、何か企画と、それをしかける人が必要。指定管理者の民間事業者との交渉も必要であり、前期の区民会議でもいこいの家を場として活用する話は出たが、実際に話を聞いてみて、難しいという結論になった。(川田委員)
- ・ 移動販売や地域拠点での定期販売の実施を現在検討している事業者もある様だ。拠点を提供いただいた方には謝礼も渡す仕組みで、市場調査をまず考えている。もし実現するのであれば、この部会で考えているいろいろな要素を盛り込むことも可能なのではないか。例えば地元の商店との連携や個人作品の販売、フリーマーケットなども合わせてやって、場所代をいただいても良いかもしれない。(川田委員)
- ・ まずは拠点ではなく、中身から考えてみてはどうか。(事務局)

【コミュニティカフェの取組について】

- ・ 全国的に今、コミュニティカフェブームだが、成功例は大体、空き家ではなく、一人暮らしなどのオーナーが住みながら、空き室や庭を開放するような形が多いようだ。一方で非常に評判だった場所もオーナーの都合で閉店になってしまう例もある。週に何日か開設して、地域の方々に手伝ってもらって時給も少し出す、そんな形が理想かと思うが、一番の課題はそうした篤志家の発掘だ。(老門(泰)委員)
- ・ 向丘地区、宮前地区のそれぞれで、新たにコミュニティカフェをつくろうというワークショップ、計 3 回ずつの開催が進められている。3 回目には模擬カフェを実施するそうだ。(川田委員)
- ・ 11 月 25 日にまちづくり協議会の専門部会で、地域でサロンやカフェに関わっている人を集めたセミナーを開催する。情報交換なども目的だ。区内には 30~40 くらいのサロンやカフェがあるのだが、大半は自治会などが中心になって、月数回開催する。本当にいろいろな形態がある。(田辺委員)
- ・ 地域包括支援センターが調査した結果では、地域カフェは区内に 19 か所あるそうだ。(老門(泰)委員)

- ・ 鷺沼の方ではカフェの取組が盛んだ。町会でやっている取組もある。(山田委員)
- ・ 私の自治会では毎月おしゃべり広場という取組をしている。(川田委員)
- ・ 区で現在テストケースを進めようとしている一つは蔵敷親和会だ。(川田委員)
- ・ 毎日開ける場を目指すとなるとかなり大変だ。(山部委員)
- ・ 週に1・2回程度で良いと思う。(影山委員)
- ・ 毎日開ける場を目指すには町会が担い手では難しいと思う。何人か有志が集まる必要があり、理想的にはその方たちがNPOなどを立ち上げる形だ。(老門(泰)委員)
- ・ 私の地域では月1回ほど自宅でカレーをつくって、地域の人に食べにおいでよと呼びかけている方がいる。何人か集まって、朝から6時間くらい話している。その程度のレベルで良いのだと思う。(影山委員)
- ・ 宮前平駅近くの「ここわ」は毎日開店しているカフェの例だが、地域の年寄りが集まるというような雰囲気にはなっておらず、ビルの2階にあることから、少し立ち寄りにくい面もあるようだ。(老門(泰)委員)
- ・ 地域包括支援センターや病院がたまり場の人もいる。それはそれで構わない。(影山委員)

【たまり場やカフェの運営方法について】

- ・ 開設コストを助成金で賄う例は多いが、助成金は長く出ても5年程度だ。その後は独立採算でやっていけるようにならなくてはならない。(影山委員)
- ・ 会員制で月に数百円でも会費を入れていただき、それをファンドとして、みんなで経営する形もある。世田谷や早稲田の方でも地域通貨の例はある。(影山委員)
- ・ 多摩区では地域通貨の取組事例がある。地域の農家の野菜を地域通貨で買う。農家はその地域を使って、カフェでお茶を飲んだりする。地域の中で循環していく取組だ。(影山委員)
- ・ 地域通貨はまちぐるみで進めることが必要だ。ユーズカフェでは、10回ボランティアをしたら、コーヒーを1杯サービスということをやっている。(川田委員)
- ・ こまじいの家はぜひ一度視察してみたい。採算性をどう確保しているのかなど大変興味がある。(川田委員)

【検討テーマの軸は→若い世代の参加】

- ・ 働く世代の交流なのか、リタイヤ世代のお小遣いを稼ぎながらの生きがいづくりなのか、ソーシャルビジネスなのか、目的から考えていけると良いと思う。(コンサル)
- ・ 人的交流が目的になるのか？(山部委員)
- ・ 前回までの話では、現役で働いている方の交流の場というイメージが強かったと感じたので、今回の参考資料として、川崎ビジネス交流会や大磯市の事例を出した。(コンサル)
- ・ 多世代の繋がりづくりは皆さん納得できるキーワードではないか。繋がりができれば、

ビジネスチャンスも生まれてくる。その辺りが一つの軸になるのではないか。(佐藤部会長)

- ・ 若い人が地域に入って来ないというのは、私もずっと考えてきている問題だ。これは宮前区だけでなく、国の問題でもある。みなさん非常に忙しい。昔は専業主婦もたくさんいたが、今は共働きも多く、地域に出るヒマがない。宮前区はまちづくりが盛んな区だというが、その担い手の中心は40代のバリバリの時から参加し始めた人が今も活動している状況で、現在は70代になっている。今の70代が30年前にできたことが今の40代はできていない。どうしたらいいのか、試行錯誤しているが、なかなか良い方法が見つかっていない。(田辺委員)
- ・ 夏祭りなども高齢者世代で廻しているのが実情だ。(山部委員)
- ・ 告知、広報の問題もあると思う。私も地域の祭事について知らない。どうやって参加したらいいのか、いこいの家も知らない。回覧も来ない。掲示板はあるが、見ている人は珍しいと思う。(佐藤部会長)
- ・ ふり返って見ても、私も若い頃は、回覧はざっと目を通して次に回していた。あまりじっくり読んでいなかった。(山部委員)
- ・ 朝出て、遅くまで仕事しているので、寝に帰ってくるだけ。地域に溶け込みたくないわけではない。でも機会がない。マンションの隣の人も良く知らない。状況上そうなってしまっている。きっかけがあれば、繋がりをもちたいと思う。(佐藤部会長)
- ・ 町会でも役員だけが知っていることは多い。役員のなり手もない。高齢者ばかり。うちの自治会では、意識的に若い人を取り込もうとしている。1年目は黙っていても、2年目からは分かってきて、意見を言って来たりする。うちの自治会では相談役制度を導入し、役員を務めた事のある高齢者を指名し、こういう人達が継続的に支えるようにしている。(山田委員)

【若い世代を呼び込む企画①宮前重金属化計画について】

- ・ 宮前区で区政 30 年の年に宮前重金属化計画というメタルという音楽ジャンルを活かした地域振興の取組があった。若い人をターゲットにした取組だったと思うが、どのように総括されたのか？(田辺委員)
- ・ 一見突拍子もない企画のように思えたが、担当者は非常に熱意をもって取り組んでいた。30周年の後は民間が引き継ぐ形になっていたかと思う。(事務局)
- ・ 「メタルでまちおこし」をキーワードに区外や市外からもミュージシャンなども来て、盛り上がっていた記憶があるが、私は「これは何なんだ」と思っていた。併せて区内のおもしろい人を紹介しようなどの取組もあったかと思う。毎年続けていれば何かあったかもしれないが、単発に終わってしまった印象だ。(田辺委員)
- ・ 話題性は充分だったし、著名なミュージシャンも来て、多くのアマチュアバンドの参加もあり、音楽イベントとしては、一定の盛り上げりはあった。私個人としては、ユニークな取組として見ていた。行政のみで音楽イベントを継続してやっていくのは難しい

面もある。楽器屋さんやライブハウスなどの基盤が宮前区に無かったので、一発企画的なものになってしまった面はあるが、宮前区でもやれたということは評価したい。他の区には無い視点で企画できるとこれだけの人が集まったという事例ではあると思う。

(事務局)

- ・ メタルの取組は個人的には興味深く、好意的に見ていたが、一方で「何でこんなのやっているんだ」という否定的な声もあったと当時感じていた。一時的な集まりとしては成功したが、地域還元や仲間づくりにまでつながらなかったのではないかと思う。(コンサル)

【若い世代を呼び込む企画②新たな企画のアイデア等】

- ・ 若い世代を巻き込むのは実際には難しい。集められるような何かが必要。例えばアニメなど何か作品づくりの環境を整えて、場を提供する例もある。(山田委員)
- ・ 地域包括支援センターには社会福祉士の資格を取りたい若い実習生がくることがある。その方にカフェのお手伝いを空いている時だけでもとお願いした。やり方はいろいろあるかなと思う。若い人たちの考えを聞くことが大事だ。(川田委員)
- ・ 若者同士をリンクさせるツールとして何を用いるか。宮前区では音楽ではない何かになるのではないか。そことソーシャルビジネスやグループ形成とを結びつけられればうまくいくのではないか。(山田委員)
- ・ 何をネタにやるかは一つ鍵になるかと思う。例えば川崎大師ではコスプレが盛り上がっている。何がきっかけで、盛り上がるかはわからない。オーディオの職人的な企業など小さなユニークな企業の本社が川崎にあったりする。情報収集して何か見出せると良いかもしれない。(事務局)
- ・ ぜひ女性をターゲットに入れて欲しい。女性は本当にパワフル。地域に実はもうネタはあるのだと思う。若い人は夫婦共稼ぎで必死。子育てなどで何か困っても、地域の誰かに聞くのではなく、ネットの情報に頼る。そこにくさびを打ちたい。絆のための人材育成を考えたい。個人の能力や趣味と地域とのマッチングができていないと感じる。(影山委員)
- ・ 冒険遊び場など子どもを集めている取組の場で、母親世代にニーズを聞いてみてはどうか。(老門(泰)委員)
- ・ 音楽ライブイベントだけでは一方的になりがち。今人気なものとしては、例えばボーカロイドがあり、作家同士の交流も全国的にある。ネット上でいきなり沖縄の人と繋がったりする。でも実は近所にも同じ趣味をやっている人がいるかもしれない。そこに場を提供して出会えるようにできないか。ネットで盛り上がっているものと絡めて新しい交流の場をつくるという考え方もあるのではないか。(佐藤部会長)
- ・ 女性を集めるのであれば、例えば最近話題なのは「美魔女」。宮前区のおかあさんにキレイになってもらおうというコンセプトで、区民祭にも参加していた区内に本社のある化粧品会社シーボンさんとコラボして企画を立ち上げれば、人が集まってくるのでは

ないか。(コンサル)

- ・ もう一つ最近の流行りは、ドローンによる空撮映像。やってみたい人はかなり多いと思うが、規制等でやれる場所がなかなか無い。そこで例えば宮前区で期間限定でも、公園や緑地などの場所でドローンを飛ばして、宮前区の素晴らしい里山自然の映像コンテンツなどの企画をやれば、結構人が集まってくるのではないか。ただ一発花火のイベントにならないように、地域とつなぐしくみを考える必要がある。(コンサル)
- ・ エンターテイメント系のイベントには若い人が参加する。市民館での発表の場にもかなり参加する。そのエネルギーをどうやって地域に還元するか。(田辺委員)
- ・ 集まった若い人たちを地域の高齢者とつなげたい。(川田委員)
- ・ 区民祭も今年は記録的な動員だったかと思う。遊びにはみんな来る。しかし地域活動には参加しない。(田辺委員)